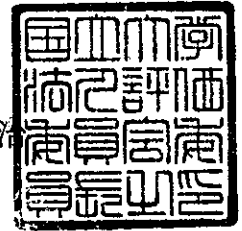


20国評委第6号  
平成21年3月26日

各国立大学長 殿

国立大学法人評価委員会委員長

野 依 良 洋



(印影印刷)

中期目標期間の業務の実績に関する評価の結果について (通知)

国立大学法人評価委員会では、このたび、貴法人の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果をとりまとめましたので、その結果を通知します。

本件担当

文部科学省高等局国立大学法人評価委員会室  
(遠藤、宮川)

TEL : 03-5253-4111 (2002)

FAX : 03-6734-3388

# 中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

宇都宮大学

平成21年3月

国立大学法人評価委員会



# 目 次

平成20年度に国立大学法人評価委員会が実施した国立大学法人の中期目標期間に係る業務 の実績に関する評価について	○
国立大学法人〇〇大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果	○
1 全体評価	○
2 項目別評価	○
I. 教育研究等の質の向上の状況	○
II. 業務運営・財務内容等の状況	○
<b>【独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施した現況分析】</b>	
学部・研究科等の教育に関する現況分析結果	○
学部・研究科等の研究に関する現況分析結果	○
意見申立てへの対応	○



## 平成 20 年度に国立大学法人評価委員会が実施した国立大学法人の 中期目標期間に係る業務の実績に関する評価について

### 評価の目的

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領（平成 19 年 4 月国立大学法人評価委員会決定、平成 20 年 3 月一部改正）」（以下、「実施要領」）に従い、国立大学法人法第 35 条により準用される独立行政法人通則法第 34 条に基づく「中期目標に係る業務の実績に関する評価」の基本をなすものとして、国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下、「法人」という。）の平成 16 年度から平成 19 年度までの 4 年間の業務の実績について、国立大学法人評価委員会（委員長：野依良治 独立行政法人理化学研究所理事長）が評価を行っています。

この国立大学法人評価は、

- (1) 法人の継続的な質的向上に資するとともに、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たしていくこと、
  - (2) 教育研究の高度化、個性豊かな大学づくり、法人運営の活性化等を目指した法人の取組を積極的に支援することにより、長期的な視点から法人の発展に資するものとなること、
  - (3) 評価結果を踏まえて、各法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや中期目標・中期計画の検討に資するものとなること
- を目的として実施しています。

### 1 評価方法

国立大学法人評価は、大学等の教育研究の特性に配慮しつつ、各法人の自己点検・評価に基づき、教育研究の状況や業務運営・財務内容の状況等について、各法人毎に定められた中期目標の達成状況等の調査・分析を行い、法人の業務実績全体について総合的に評価を実施いたしました。したがって、本評価制度は、各法人間の相対比較をするものではないことに留意する必要があります。

このうち、教育研究の状況については、専門的な観点からきめ細かく評価を行うことが必要であることに配慮し、国立大学法人法に基づき、国立大学法人評価委員会が、独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）に対し評価の実施を要請し、当該評価の結果を尊重して評価を行っています。

#### (1) 法人における自己点検・評価

各法人は、実施要領等に従って、自己点検・評価を実施し、平成 16 年度から 19 年度までの期間の業務の実績に係る報告書を作成しました。

#### (2) 機構における教育研究の状況の評価

機構においては、教育研究の状況の評価として、「中期目標の達成状況の評価」及び「学部・研究科等の現況分析」を行いました。

中期目標の達成状況の評価は、「教育研究等の質の向上」の目標に係る「教育に関する目標」、「研究に関する目標」、「社会との連携、国際交流等に関する目標」の 3 項目（※大学共同利用機関法人については、「共同利用等に関する目標」を加えた 4 項目）について、各法人から提出された達成状況報告書等を調査・分析するとともに、訪問調査を実施し、書面では確認できなかった事柄等の確認を行いながら評価を実施しました。

学部・研究科等の現況分析は、①主要な教育研究組織毎に教育研究の水準や質の向上度を明らかにすることが、中期目標の達成状況を適切に判断するために必要であるとともに、②各法人の個性を伸ばし質を高める観点から、各法人が自主的に行う組織及び業務の検討や次期中期目標・中期計画の素案に関する検討に、評価結果を反映させるためにも必要であるとの趣旨で実施しました。各学部・研究科等における教育、研究の目的に照らし、「教育の水準及び質の向上度」「研究の水準及び質の向上度」について、各法人から提出された現況調査表等を調査・分析して評価を実施しました。

### (3) 国立大学法人評価委員会における評価

国立大学法人評価委員会においては、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他業務運営に関する重要事項（施設設備の整備・活用、安全管理等）」の4項目について、各法人から提出された実績報告書等を調査・分析するとともに、学長・機構長等からのヒアリング、財務諸表等の分析も踏まえながら評価を実施しました。

教育研究等の状況については、機構における評価結果を基本的にそのまま受け入れつつ、国立大学法人評価委員会において附属病院及び附属学校の状況に関する評価を実施するとともに、定員超過の状況の確認を行っております。

#### ① 全体評価

- ・ 中期目標期間における業務実績の全体について、各法人の特性や項目別評価の状況を踏まえつつ、記述式により総合的な評価を行っております。

#### ② 項目別評価

- ・ 「教育に関する目標」、「研究に関する目標」、「その他の目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び情報提供に関する目標」、「その他業務運営に関する重要目標（施設設備の整備・活用、安全管理等）」の7項目（※大学共同利用機関法人については、「共同利用等に関する目標」を加えた8項目）については、以下の5種類により達成状況を示しております。なお、これらの水準は、各法人を通じた最小限の共通の観点を踏まえつつも、各法人の設定した中期目標に対応して示されるものであり、各法人間の相対比較をするものではないことに留意する必要があります。

「中期目標の達成状況が非常に優れている」

「中期目標の達成状況が良好である」

「中期目標の達成状況がおおむね良好である」

「中期目標の達成状況が不十分である」

「中期目標の達成のためには重大な改善事項がある」

## 2 評価体制

国立大学法人評価委員会の国立大学法人分科会、大学共同利用機関法人分科会の下に評価チームを設置して、調査・分析を行っております。評価チームとしては、国立大学法人分科会については、近隣地区の大学を担当する基本チーム及び附属病院の専門評価チームを、大学共同利用機関法人分科会については、各法人を担当するチームを設置して評価を行っております。

機構が行う教育研究の状況の評価については、機構の国立大学教育研究評価委員会の下に具体的な評価を実施するために、達成状況判定会議、現況分析部会及び研究業績水準判定組織を編成し、評価を行っております。達成状況判定会議は、各法人の規模・構成に応じた8つのグループを編成し、さらにグループ内に複数のチームを設置して評価を行っております。現況分析部会は、分野別の10の学系部会を設置して評価を行っております。研究業績水準判定組織は、科学研究費補助金の分類を基とした66の専門部会を設置して評価を行っております。

## 3 審議経過

### 【国立大学法人評価委員会における評価】

平成20年

- ・ 6月30日まで 各法人から実績報告書、財務諸表等の提出
- ・ 7月22日～8月7日 各評価チーム会議において実績報告書等の調査・分析
- ・ 7月29日～8月11日 各法人から業務の実績についてヒアリング（国立大学法人）
- ・ 9月1日 // （大学共同利用機関法人）
- ・ 12月8日～12月19日 各評価チーム会議において評価結果（骨子案）の検討

平成21年

- ・ 2月23日～2月27日 各評価チーム会議において評価結果（骨子案）の検討
- ・ 2月26日 大学共同利用機関法人分科会において評価結果（素案）の審議  
（意見申立ての機会：3月6日～13日）
- ・ 3月6日 国立大学法人分科会において評価結果（素案）の審議  
（意見申立ての機会：3月6日～13日）
- ・ 3月26日 国立大学法人評価委員会総会において評価結果（案）の審議・決定

### 【機構における教育研究の状況の評価】

平成19年

- ・ 4月6日 国立大学法人評価委員会から教育研究の状況の評価の実施の要請

平成20年

- ・ 7月～8月 書面調査
- ・ 9月2日～9月8日 現況分析部会（第1回）において評価結果（素案）の審議
- ・ 9月11日～9月30日 達成状況判定会議（第1回）において評価結果（素案）の審議
- ・ 10月14日～11月28日 法人への訪問調査
- ・ 12月1日～12月5日 現況分析部会（第2回）において評価結果（原案）の審議
- ・ 12月15日～12月19日 達成状況判定会議（第2回）において評価結果（原案）の審議

平成21年

- ・ 1月8日 国立大学教育研究評価委員会において評価報告書（原案）の審議  
（意見申立ての機会：1月13日～30日）
- ・ 2月10日 意見申立審査会において意見申立の対応審議
- ・ 2月19日 国立大学教育研究評価委員会において評価報告書（案）の審議・決定  
機構から国立大学法人評価委員会へ教育研究の状況の評価結果の提出



#### 4 国立大学法人評価委員会委員（平成21年3月現在）

（委員） 17名

あらかわ まさあき 荒川 正昭	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター長、 新潟県福祉保健部・病院局参与
いよし あつお ○飯吉 厚夫	中部大学総長
いけはた せつほ 池端 雪浦	前東京外国語大学長
えがみ せつこ 江上 節子	東日本旅客鉄道株式会社顧問、 大正製薬（株）監査役
かつかた しんいち 勝方 信一	教育ジャーナリスト
からき さちこ 唐木 幸子	オリンパス株式会社研究開発センター研究開発本部基礎技術部長
くさま ともこ 草間 朋子	大分県立看護科学大学長
ごとう しょうこ 後藤 祥子	日本女子大学長・理事長
つげ あやお 柘植 綾夫	芝浦工業大学長
てらしま じつろう 寺島 実郎	株式会社三井物産戦略研究所所長、 財団法人日本総合研究所理事長
とりい やすひこ 鳥居 泰彦	慶應義塾学事顧問、 日本私立学校振興・共済事業団理事長
なぐも みつお 南雲 光男	日本サービス・流通労働組合連合顧問
のより りょうじ ◎野依 良治	独立行政法人理化学研究所理事長
ひるた しろう 蛭田 史郎	旭化成株式会社社長、 経団連教育問題委員会共同委員長
みやうち しんぶ 宮内 忍	宮内公認会計士事務所所長
みやはら ひでお 宮原 秀夫	独立行政法人情報通信研究機構理事長
もりわき みちこ 森脇 道子	自由が丘産能短期大学長

（臨時委員） 3名

たち あきら 館 昭	桜美林大学大学院国際学研究科教授
やまもと きよし 山本 清	独立行政法人国立大学財務・経営センター研究部長
わだ よしひろ 和田 義博	和田義博会計事務所所長

※ ◎は委員長、○は委員長代理

国立大学法人評価委員会の下に置かれる国立大学法人分科会、大学共同利用機関法人分科会及び評価チームの委員については、文部科学省のウェブサイトをご覧ください。

5 大学評価・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会委員（平成 21 年  
3 月現在）

（委員）30 名

あさの	せつろう	東京大学名誉教授
浅野	攝郎	
いいの	まさこ	津田塾大学長
飯野	正子	
いけだ	たかよし	長崎県立大学長
池田	高良	
おかだ	しゅうぞう	東京海上日動火災保険株式会社特別任命参与
岡田	修三	
かねだ	よしゆき	ソニー株式会社社友
金田	嘉行	
○北原	やすお	前日本学生支援機構理事長
保雄		
きむら	せいじ	立正大学教授
木村	靖二	
こうづ	ただひこ	東京女子医科大学顧問・名誉教授
神津	忠彦	
こうの	みちかた	独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部長
河野	通方	
こばやし	まこと	独立行政法人日本学術振興会理事
小林	誠	
こだま	たかお	学校法人帝塚山学院学院長
児玉	隆夫	
ごみ	ふみひこ	放送大学教授
五味	文彦	
さいとう	やえこ	前東京都立九段高等学校長
齋藤	八重子	
すずき	あきのり	東京大学名誉教授
鈴木	昭憲	
せと	じゅんいち	駿河台大学教授
瀬戸	純一	
たち	あきら	桜美林大学教授
館	昭	
たんぼ	のりひと	北海道大学名誉教授
◎丹保	憲仁	
なかがわ	ゆきや	株式会社 I H I 取締役
中川	幸也	
なかざと	たけし	前NHK学園理事長
中里	毅	
なかす	まさたか	兵庫教育大学名誉教授
中洩	正堯	
なかの	ひとお	九州大学名誉教授
中野	仁雄	
はしもと	きみこ	京都府立南陽高等学校長
橋本	貴美子	
ひらまつ	かずお	関西学院大学教授
平松	一夫	
ひろべ	まさあき	前静岡県立大学長
廣部	雅昭	
ハンス ユーゲン・マルクス		学校法人南山学園理事長
まえはら	すみこ	京都橘大学看護学部長
前原	澄子	
まつおか	ひろし	帝塚山大学長
松岡	博	
まわたり	しょうけん	宮城大学長
馬渡	尚憲	
むた	たいぞう	福山大学長
牟田	泰三	
わだ	けいしろう	放送大学石川学習センター所長
和田	敬四郎	

※ ◎は委員長、○は副委員長

国立大学教育研究評価委員会の下に置かれる各種部会等の委員については、独立行政法人大学評価・学位授与機構のウェブサイトをご覧ください。

# 国立大学法人宇都宮大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

宇都宮大学は、広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践し、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献することを基本的な目標として掲げ、県内の4市町村との包括協定の締結や同窓会連絡協議会、地域連携協議会等の開催により社会のニーズを踏まえながら大学運営の充実に努めている。

中期目標期間の業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、県内の全高等教育機関が参画する「大学コンソーシアムとちぎ」における他大学等との単位互換や大学間連携講座等の実施、「TA 指導手引書」の作成及びガイダンスの実施によるティーチングアシスタントの指導の充実等、教育の質的・量的拡大に努めている。

研究については、新設のオプティクス教育研究センターを中心とした企業との連携による光科学技術の拠点形成、「とちぎ大学連携サテライトオフィス」を介した情報交換会・技術相談会等の積極的な開催等に取り組んでいる。

社会連携・国際交流等については、国際学部による国際 NGO 活動の支援や、学内共同利用施設の地域住民への開放拡大を行うなど地域貢献の積極的な推進が図られている。

業務運営については、事務局の整理統合等による体制の充実強化や各種委員会の見直しを行い、平成 18 年度より、24 の全学委員会を 15 の委員会に整理再編するなど、組織のスリム化を図っている。

一方、自己点検・評価のうち組織及び運営の状況に関する事項については、経営協議会において審議すべき事項であるが、報告事項として扱われていることから、適切な審議を行うことが求められる。

また、教員評価については、教員の人事評価に関する基本方針の検討を行っているところではあるが、今後、昇任等の処遇に適切に反映する人事評価制度の構築等、中期計画の達成に向けたさらなる取組が期待される。

財務内容については、メインバンク等の支援により地域貢献事業へ参加する学生等に対する助成及び学生奨励金に充当することを目的とした「峰が丘地域貢献ファンド」の創設、教育研究活動の活性化及び教育研究環境並びに学生支援の充実を目的とした「宇都宮大学基金」の創設等、自己収入の増加に努めている。

自己点検・評価については、各種委員会活動における点検評価活動実績の点検評価の実施が平成 18 年度及び平成 19 年度の評価結果において課題として指摘されており、早急に対応することが求められる。

## 2 項目別評価

### I. 教育研究等の質の向上の状況

#### (I) 教育に関する目標

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

##### 2. 各中期目標の達成状況

###### (1) 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

###### (2) 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（12項目）のうち、10項目が「おおむね良好」、2項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

###### (3) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### (4) 学生への支援に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

#### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

##### (優れた点)

- 中期計画「各学部の教育目標にふさわしい卒業後の進路を確保するために、全学並びに学部ごとに、適切な学生指導を行う」について、各学部で就職セミナーを実施するなど指導体制の充実に努めており、また、大学・大学院における教員養成推進プログラムに採択されるなど、着実な成果を上げていることは、優れていると判断される。

##### (改善を要する点)

- 中期計画「教育の成果を検証するために、同窓会や広く社会の識者を含めた評価を行う」について、同窓会関係以外の識者を加えた評価に関する取組が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。
- 中期計画「外国語による授業を拡大する」について、外国語による授業拡大についての自己分析がなされておらず、中期計画の進捗状況が認められないことから、改善することが望まれる。
- 中期計画「GPA を基本にした総合的達成度評価法を開発し、試行する」について、大学院では、現時点でもグレード・ポイント・アベレージ（GPA）導入の可能性が検討段階であり、十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。

##### (特色ある点)

- 中期計画「大学院修士課程及び博士前期課程の教育運営体制を見直し、専門分野ごとに教育課程の再構築を図る」について、オプティクス教育研究センターの設置とオプティクス教育の授業科目の開講は、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「本学のガイダンス機能を強化するとともに、高大教育連携協議会等を通じて高等学校側と意思疎通を図り、入学者選抜方法の改善に役立てる」について、学長・副学長による約 80 校の高等学校訪問を実施していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「インターンシップなど実践的な教育の場を拡充する。また、その充実のため産学が連携して教育プログラムの開発を行う。」について、県内の企業を対象にインターンシップに関する説明会を実施し、受入れ企業の拡大に努めるとともに、インターンシップ推進協議会に参加して、産学連携の教育プログラムの開発等の検討を意欲的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「GPA（Grade Point Average）を基本にした総合的達成度評価法を開発し、試行する」について、学部において、グレード・ポイント・トータル（GPT）・GPA 制

度を導入するため、実施準備ワーキンググループ（WG）を立ち上げ細部の検討を意欲的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画「近隣の大学等を中心に、高等教育の連携組織を整備し、単位互換やカリキュラム開発研究などを通じて、教育の質的、量的充実を目指す」について、県内の全高等教育機関が参画する「大学コンソーシアムとちぎ」で他大学等と単位互換や大学間連携講座等を実施していることは、特色ある取組と判断される。
- 中期計画「国際交流・国際貢献に関わる教育研究体制を整備し、この分野の実践的教育を充実させる」について、国際交流・国際貢献にかかわる授業科目の新設を行い、これに対応した教員組織の編制を積極的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「TA、チューターの任務、配置及び採用の基本方針を見直す」について、『TA指導手引書』の作成及びガイダンスの実施により、ティーチング・アシスタント（TA）の指導を積極的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

## （Ⅱ）研究に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### （1）研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### （2）研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(特色ある点)

- 中期目標「独創的な研究を重点的に育成するための支援を行う」について、新設のオプティクス教育研究センターが中心となり、企業との連携による、光科学技術の拠点形成を意欲的に行ったことは、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標「社会及び地域の学術、文化、産業及び生涯教育を支援する中核としての機能を担う」について、「とちぎ大学連携サテライトオフィス」を介した情報交換会・技術相談会等を積極的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「外部資金の積極的導入を督励し、その成果（申請・採択等）を教員の研究費配分並びに人事評価に反映させる」について、インセンティブの高揚に向けたオーバーヘッド制度の活用を積極的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「研究設備の有効利用を図るため、共同利活用方式を順次整備する」について、茨城大学、群馬大学、埼玉大学との4大学による大学院連携に関する協定の締結による分析機器の相互利用等、研究環境の整備を積極的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

### (III) その他の目標

#### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

##### 2. 各中期目標の達成状況

###### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

##### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(特色ある点)

- 中期目標「現代社会が抱える生活・教育・文化・産業・行政・環境等の諸課題に取り組むために、広く社会と教育研究面での交流を積極的に展開する」について、国際学部による国際 NGO 活動の支援や、学内共同利用施設の地域住民等社会への開放の拡大等地域貢献の積極的な推進が図られていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「産学官連携及び県内大学間の研究教育活動の連携を推進する」について、「とちぎ大学連携サテライトオフィス」を拠点として、学生・企業発表会等各種の活動を通して、積極的に地域連携が行われていることは、特色ある取組であると判断される。

## (2) 附属学校に関する目標

宇都宮大学附属学校は、大学・学部と連携し、地域の学校のモデルとなる教育研究を推進し、多様なニーズを持つ子ども一人ひとりに応じた適切な教育を通し、個人及び市民として望ましい成長・発達の実現を目指している。

教育実習の内容充実、教員養成の実践的指導の充実のため組織体制を整備するとともに、学部の教育実習改革に附属学校教員が参加して実習内容・体制の詳細について改善を図るなど、積極的に取り組んでいる。

学校教育においても、幼小中の教員で研究組織を構築し、共通研究日を設け、交換授業を実施しながら教育方法の改善について検討し、言語、表現等の各系に報告書を作成し、実験的、先導的教育課題に取り組んでいる。

一方、共同研究については、附属学校の重要な役割の一つであるにも関わらず、具体的な年度計画等が設定されていないため、今後、適切な年度計画を設定するとともに、計画的な業務の推進に努めることが求められる。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 「教育実習専門委員会」を解消し、新たに教育実習等の教育実践に関する授業の企画運営に携わる「教育実践推進室」(大学教員と附属学校教員で構成 10 名)と「教育実践運営委員会」(推進室メンバー、附属学校教育実習担当教員、各学年の指導教員の代表で構成 20 名)を設置し、教育学部と附属学校の連携強化を図っている。
- 「四附属特別支援教育推進委員会」を組織し、学部教員の協力の下、幼小中においてスクリーニングを実施し、特別支援学校教員や保護者とも連携を図り、個別の支援計画を策定するなど、多様なニーズを持つ子どものための特別支援教育体制作りを推進している。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 中期計画には「附属学校の教育改善をテーマとした共同研究を学部・附属学校の連



携により進める。」とあるが、適切な年度計画等が設定されておらず、実施状況においても具体的な取組がみられないため、適切な年度計画を設定するとともに、計画的な業務の推進に努めることが求められる。

## II. 業務運営・財務内容等の状況

### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ① 運営体制の改善
- ② 教育研究組織の見直し
- ③ 人事の適正化
- ④ 事務等の効率化・合理化

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 事務局の整理統合等による体制の充実強化や各種委員会の見直しを行い、平成 18 年度より、24 の全学委員会を 15 の委員会に整理再編するなど、組織のスリム化を図っている。
- 職場と家庭の両立支援の観点から「宇都宮大学次世代育成支援行動計画」を策定するとともに、教職員及び学生を対象とした「宇都宮大学まなびの森保育園」を学内に誘致するなど、男女共同参画社会の実現に向けて環境の整備に努めている。
- 学内に最高情報責任者（CIO）、CIO 補佐及びセキュリティ最高責任者（CSO）、CSO 補佐を設置するとともに、情報セキュリティマネジメントシステム（ISO27001）を取得するなど、大学の情報化戦略の実現に向けた取組を進めている。
- 教員評価については、教員の人事評価に関する基本方針の検討を行っているところではあるが、今後、昇任等の処遇に適切に反映する人事評価制度の構築等、中期計画の達成に向けたさらなる取組が期待される。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 自己点検・評価のうち組織及び運営の状況に関する事項については、経営協議会において審議すべき事項であるが、報告事項として扱われていることから、適切な審議を行うことが求められる。

**【評定】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(理由) 中期計画の記載 40 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるが、経営協議会の適切な審議が求められること等を総合的に勘案したことによる。

### (2) 財務内容の改善に関する目標

- ① 外部研究資金その他の自己収入の増加
- ② 経費の抑制
- ③ 資産の運用管理の改善

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 産学官連携・知的財産本部を中心に、産学官連携コーディネーターの配置、各種情報提供を推進した結果、受託研究が 46 件、1 億 4,152 万円、共同研究が 122 件、1 億 394 万円、寄附金が 315 件、3 億 362 万円、外部資金比率が 5.6%（対平成 16 年度比 1.5% 増）となっている。
- メインバンク等の支援により地域貢献事業へ参加する学生等に対する助成及び学生奨励金に充当することを目的とした「峰が丘地域貢献ファンド」の創設及び、教育研究活動の活性化及び教育研究環境並びに学生支援の充実を目的とした「宇都宮大学基金」の創設等、自己収入の拡充に努めている。
- プロジェクトチームを設置し、民間・私学等における経費抑制方法等を調査し、大学独自の「物件費の節減合理化基本方針」を策定するとともに、大学会館の管理業務の外部委託業務、役務調達の複数年契約の導入等により、経費の節減に努めている。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 8 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ① 評価の充実
- ② 情報公開等の推進

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 「宇都宮大学情報公開基本方針」に基づく、学内規程、委員会議事内容・活動実績等のウェブサイトへの掲載、各学部等における年報、研究報告の刊行物による公表等、大学の活動状況の情報発信に努めており、さらなる情報公開の促進を行うことが期待される。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 各種委員会における活動実績記録の取りまとめ、ウェブサイトへの掲載、点検評価活動実績の点検評価の実施については、平成 18 年度及び平成 19 年度評価結果で評価委員会が課題として指摘している。各種委員会の議事要録等、活動実績記録等をウェブサイトへ掲載しているものの、点検評価活動実績の点検評価を行っていないことか

ら、早急に対応することが求められる。

【評定】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(理由) 中期計画の記載 7 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるが、点検評価活動実績の点検評価の実施に対する早急な対応が求められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- ① 施設設備の整備・活用等
- ② 安全管理

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 「宇都宮大学樹木憲章」及び「峰町団地における環境美化維持のための申し合わせ」を制定するとともに、周辺住民が憩いの場として利用できるようイギリス式庭園に木製ベンチを設置するなど、周辺地域の環境と共生を図っている。
- 全学安全衛生委員会において、「教職員及び学生の安全と健康の確保に関する方針及びその方針に基づく目標」を策定するとともに、地区ごとに、その目標に則した活動計画を策定するなど、全学的な安全対策を計画的に実施している。
- 研究費の不正使用防止については、「不正防止計画推進室」の設置、「国立大学法人宇都宮大学における研究費等の取扱いに関する規程」の策定、第三者による検収体制の整備等を行っている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 19 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	国際学部	教育 1-1
2.	国際学研究科	教育 2-1
3.	教育学部	教育 3-1
4.	教育学研究科	教育 4-1
5.	工学部	教育 5-1
6.	工学研究科	教育 6-1
7.	農学部	教育 7-1
8.	農学研究科	教育 8-1



**国際学部**

I	教育水準	.....	教育 1-2
II	質の向上度	.....	教育 1-4

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「基本的組織の編成」については、国際社会学科及び国際文化学科の2学科体制の下、地球社会形成研究講座、国際社会交流研究講座、地球文化形成研究講座及び国際文化交流研究講座の4講座が設置され、計38名の教員が配置されている。国際社会学科では、諸国家・地域で起こる社会事象を学ぶ体制にある。国際文化学科では、異文化間の交流と相互理解に寄与する基礎理論と比較文化研究の方法を学ぶ体制となっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、運営会議、FD専門委員会、学部教務委員会の連携によって教育内容及び教育方法の改善が図られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、国際学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、国際学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 教育内容

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「教育課程の編成」については、教育課程は、学部基礎科目、学科基礎科目、選択科目、演習及び実験・実習科目から編成されており、なかでも実践的能力育成のため教員と学生が授業計画・実施を協働する参加型授業科目が設置されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、二つの学科の基礎となる理論の習得、並びに、実践的外国語運用能力や実践的国際貢献能力の養成を目指している。また、国際ビジネス、国際貢献や地域の国際化への対応で即戦力となる人材の養成に対応が図られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、国際学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、国際学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。



### 3. 教育方法

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義型の授業だけでなく参加型授業科目を設けている。卒論についてはその準備演習を含め1年半にわたって継続した指導を受ける体制となっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学習・研究の基礎的態度の形成を目指して初期セミナーAを必修としているほか、専門科目の演習、実験、実習において学生の自主的な発表、討論、調査及びレポート作成を重視し、調査結果の発表や議論を奨励している。また、交換留学制度などの充実も行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、国際学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、国際学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 4. 学業の成果

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学生が当該学部で学び得た学力や能力は、海外を含む大学院進学、海外的業務、語学を活かした教育分野などへの就職に実績として現れているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業評価アンケートの結果では、学生の授業満足度は5点満点中4.1点であり、自由記述からも学部が目指す能力についての習得がなされた事例が見られることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について国際学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、国際学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 5. 進路・就職の状況

### 期待される水準にある

#### [判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成19年度の卒業生118名のうち、90名が就職、12名が進学している。コミュニケーション能力を活用しようとする志向性が認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生30名を対象としたアンケートにおいて、実践的国際地域貢献能力や、実践的外国語運用・コミュニケーション能力に関する肯定的回答が多いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、国際学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、国際学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

**国際学研究科**

I	教育水準	.....	教育 2-2
II	質の向上度	.....	教育 2-4

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、国際学研究所は、大学院博士前期課程においては国際社会研究専攻、国際文化研究専攻及び国際交流研究専攻の3専攻、博士後期課程においては国際学研究専攻の1専攻によって構成されており、博士前期課程36名、博士後期課程33名の教員組織によって構成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、博士前期課程では運営会議、博士後期課程では運営部会が改善案を検討し、研究科委員会が具体的な方針を決定するという体制が取られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、国際学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、国際学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 教育内容

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、博士前期課程では連鎖的交流空間における経済、政治、社会、文化のシステムの構造と機能に着目した教育課程の編成になっている。博士後期課程では基礎演習、基盤研究、リサーチ演習、臨地研究と特別研究を経て博士論文を提出する編成になっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、国際分野で即戦力となる人材の要請に応じて、国際学総合研究A、Bという科目を設置し、学際的・総合的アプローチを身につけさせている。この科目は社会の要請に応じて、サテライト公開授業として市民に公開している。またフィールドワーク実習を設置して調査分析能力を涵養している。さらに国際分野の専門職で活動しようとする学生や社会人の要請に応じて、平成19年4月に博士後期課

程を設置したなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、国際学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、国際学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 3. 教育方法

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義、演習、実習など多様な授業科目の開講形態、複数指導体制、社会人学生に配慮した夜間、土日の開講など柔軟な教育方法を取っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスの整備により主体的学習を促す情報を提供し、「国際学臨地研究」を必修化して海外での調査研究を促進しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、国際学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、国際学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 4. 学業の成果

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修士論文の完成に向けた研究の過程で、学生は異文化理解や多文化共生、市民レベルでの国際交流、国際貢献といった事柄を体得し、その成果を論文に結実させているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成19年2月に修士論文を提出した学生に対し実施されたアンケートによると、8割以上の学生が国際学の知識や考え方が向上したと答えているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、国際学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、国際学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

る。

## 5. 進路・就職の状況

### 期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 19 年度においては就職希望者 15 名全員が就職している。また進学者は 6 名である。社会人入学者もキャリアアップして修了している者が多いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年 10 月に修了生に対し実施したアンケートで、日本語教育をめぐる問題理解、国際開発援助についての知識が役立っている等高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、国際学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、国際学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 6 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

**教育学部**

I	教育水準	.....	教育 3-2
II	質の向上度	.....	教育 3-4

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教育学部は学校教育教員養成課程、生涯教育課程、環境教育課程の3課程から構成され、附属学校の教員が、教育実習の指導や学部授業の实地指導講師として協力し、授業の充実に寄与しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学部長の下におかれている運営会議が教育内容の基本事項について検討し、学部に教育実践推進室、教育実践運営委員会、教科等専門科目検討チーム、カリキュラム改革検討チーム、就職支援室を設置して、教育実習の検討、教科専門科目・教科教育科目の内容の検討、教職カリキュラム関連の改革検討を行っている。これらの組織の委員は数年間交代せずに継続して委員を務め、教育課題に対して戦略的に対応できるようにしている。さらに教員養成の改善のために宇都宮大学教員養成連絡協議会を設置し、県内の教育関係者と教員養成について懇談を行い、その結果を教育内容の見直しに生かしている。また、平成17年度・平成18年度には文部科学省資質の高い教員養成推進プログラム（教員養成GP）が採択され、その実践を通して授業改革を行った実績があるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 教育内容

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学校教育教員養成課程では共通教育科目、学部共通科目、課程共通科目Ⅰ、課程共通科目Ⅱ、課程選択科目、及び専攻専門科目の133単位で構成され、教育実習や教育実践インターンシップ等の実践活動をカリキュラムに取り入れている。またすべての校種の免許状が取れるように編成に工夫をしている。生涯教育課程と環境教育課程は卒業要件単位を124単位として、それぞれの専攻の専門的知識を習得させ



らようになっている。各授業のシラバスは、印刷版及びウェブサイト版で学生に周知しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、教育学部は学校現場のニーズに応え、実践的指導力のある教員の養成に力を入れ、そのために学部教員が附属学校に出向き教育実習生の指導に当たっているほか、公立学校における実習でも研究授業に立ち会っている。また平成18年度から教育実践インターンシップが導入されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 3. 教育方法

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、教員養成課程においては実践的指導力の養成に力を入れ、教師入門、教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ、教育実習Ⅲを組み合わせで効果の出る工夫がなされている。また少人数教育に努め、ティーチング・アシスタント(TA)を活用して個別指導を目指している。実践的指導力の養成においては教育実習やそれに関係する教育活動を1年次から4年次にかけて配置し、一貫した学習指導体制を採っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、入学時の履修ガイダンスにおいて履修モデルを示し、4年間の見通しを持って履修計画を立てるように指導し、「初期セミナーB」においては学習習慣を形成するように導いている。1学期に履修登録できる単位数を24単位以内に制限(例外規定あり)し、そのことによって授業を受ける準備や復習ができるように配慮しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 4. 学業の成果

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、卒業要件単位数 133 単位を 2 割上回る 160 単位以上を取得して卒業する者が全体の 43.8%いる（平成 18 年度卒業生）などの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「学生の授業評価報告書」から引用されており、それによると「授業内容の質問事項」と「教員養成における評価の質問事項」については 5 点満点で平成 16 年度以降漸増の傾向にあり、平成 18 年度では 4 以上の評価得点を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## 5. 進路・就職の状況

### 期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職率は年度によって内定率や就職率の呼称が採られているが、全般的には 90%前後で推移している。学校教育教員養成課程卒業者の就職した者のうち教職への就職率はおおむね 5 割を超えているほか、公務員に採用されたり、企業に就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、教員養成課程の卒業者の主たる進路である栃木県内の教育関係者に対する聞き取り調査の結果、近年の諸問題に対する対応力が不十分であるとの指摘もあるが、卒業生には教科専門の力があり、まじめであるとの評価を受けているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。



**教育学研究科**

I	教育水準	.....	教育 4-2
II	質の向上度	.....	教育 4-4

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「基本的組織の編成」については、教育学研究科は4専攻(学校教育、教科教育、カリキュラム開発学、特別支援教育)から構成され、その中の教科教育専攻は10専修を含んでいる。2学年を合わせた学生現員数は、定員に対して適切であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育内容や教育方法の改善は、教育学研究科長の下に置かれている運営会議において基本方針が検討される。その実務は、教務委員会が中心になって取り組み、ファカルティ・ディベロップメント(FD)は運営会議が学習会を開催するなどして実施されている。県内の教育関係者とは、宇都宮大学教員養成連携協議会を組織し、そこで懇談を行い、その結果を教育内容の見直しに生かしていることなど、全体として改善に向けての取組、努力がなされていると判断されるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 教育内容

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「教育課程の編成」については、根拠資料は明瞭ではないものの、教育学研究科は、学生の実践的指導力を高めることを目指しており、特にカリキュラム開発専攻においてはカリキュラム開発・経営に関する科目、カリキュラム構成特論、各種の教材開発・評価演習等のカリキュラム実験に関する科目を開講して、教育現場のニーズに応えようとしており、全体として努力を伺うことができるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、教育学研究科は現職教員の再教育にも取り組み、実践的な指導力の育成に努めてきているが長期履修制度によりそれを容易にし、

またカリキュラム開発専攻は、働きながら履修できるように現職者のニーズに直接に応えるカリキュラム構成になっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 3. 教育方法

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、教育学研究科での授業は5名以下での個別的な指導が行われている。学生の研究指導と論文指導では、主任指導教員1名と副指導教員1名の複数指導体制が採られている。またカリキュラム開発専攻においては教材開発・教科演習においてはいくつかの専門分野の教員が共同担当しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスによって授業内容を周知し、主体的な学習を促すなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 4. 学業の成果

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修了者の多くが修了要件を上回る単位を取得している。また学生の研究の多くが教育実践センター紀要等に掲載されており、学会発表が活発に行われているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、少人数授業が多いためにアンケート形式による学生の授業評価は行わず、授業内外で常に学生の意見を取り入れて授業改善に取り組んでいるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## 5. 進路・就職の状況

### 期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 16 年度から平成 18 年度の修了者についてみると、その 33%から 55%が教職に就いているほか、企業へ就職し、公務員になるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、教育学研究科修了生の主たる進路である栃木県内の教育関係者に対して行った聞き取り調査の結果、近年の教育現場における諸問題に対する対応が不十分な面があるとの指摘もあるが、教科専門の力があり、まじめであるとの評価を受けているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 2 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。



**工学部**

I	教育水準	.....	教育 5-2
II	質の向上度	.....	教育 5-5

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学部は5学科と、附属ものづくり創成工学センターから構成されている。また、大学院工学研究科専任教員並びに全学組織である地域共生研究開発センター、機器分析センター、オプティクス教育研究センター、附属図書館が当該学部の教育研究に積極的に参画している。共通教育に関しては、全学組織である共通教育センターの共通教育連絡会に、初期教育、外国語、社会科学、自然科学等の分科会が組織されており、全教員が分散して所属し、各分野の教育に当たっている。また、学部の運営に関しては、教授会、工学部企画戦略会議、学科長会議をはじめとする各種委員会及び工学部技術部が教育・研究の支援を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育目標達成のための適切な組織と人材配置、及び工学部共通教育、学科カリキュラム、全学共通教育の内容の企画、検討、実施のための組織が存在し、活発に活動している。工学部の教育活動については、学内外の意見を幅広く聴取する機会を積極的に設け、ものづくり創造教育、キャリア教育に注力するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 教育内容

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「教育課程の編成」については、授業科目は初期導入科目、リテラシー教育科目、教養教育科目、専門教育科目に区分されている。まず、入学直後の1年次に、学問に対する動機付けと自主学習能力の向上を目指し、全学科で初期教育科目を実施している。リテラシー教育科目は現代の学生に求められるリテラシーを習得するためのもので、国際コミュニケーションリテラシー、健康リテラシー、情報リテラシー、に関する科目を必修科目とし

て開講するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、「ものづくり」に対する社会の要請に応えるために、平成14年度より共通専門基礎科目「創成工学実践」を開講し、全学科の必修とした。自主性、創造性、独創性、問題解決意欲、グループ活動、プレゼンテーション能力を高めることを目指し、当該科目はプロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）授業形式を取り入れるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 3. 教育方法

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義科目だけではなく演習や実験、実習等の授業形態を多く取り入れたカリキュラム編成がなされている。初期導入科目として「初期セミナー」、英語、数学等を対象にして、10～20名あるいは20～40名程度の少人数教育がなされている。また、授業形態の多様化に伴って、プロジェクター、AV機器等を導入し、ウェブ上で利用する授業支援システム Moodle が利用されている。また、本学部の特徴である「ものづくり」をテーマにした「創成工学実践」等学生の自主性や創造性を重んじた教育指導を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、授業の予習や復習等の時間外学習を促進し、学生の自主性を育成することに力を入れている。オフィスアワーやインターネットを利用した学生の質問等への対応を各教員レベルで行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 4. 学業の成果

#### 期待される水準にある

## [判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学力や資質・能力を進級状況から検討すると、4年次に必修科目として課している卒業研究の効果を上げるため、共通教育関係科目と専門基礎科目の単位修得を中心とする履修要件を設けている。97%の学生がすべての単位を取得し学士を授与されている。7割以上の学生が卒業研究履修、3割程度が留年している。留年または退学する約3%の学生に対して、平成14年度から学生の保証人に成績表の通知を行い、その結果退学者が減少しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成17年度及び平成18年度の卒業生アンケートの結果によれば、授業の満足度について全体では「満足・やや満足」を合わせて30%程度である。これに普通まで含めると80%程度である。また、研究指導については「満足・やや満足」を合わせて60~70%であり、これに「普通」も含めると80%を超える。また、教室における授業に比べて、研究室における指導の方が学生の満足度が大きいなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## 5. 進路・就職の状況

### 期待される水準にある

## [判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業（修了）後の進路は進学と就職に分けられるが、学部全体として、法人化後は進学率が50%を超え進学者数が就職者数を上回っている。就職者の70%以上が製造業、情報通信業、建設業、及び情報関連のサービス業に就職している。就職先を地域別に見ると、大企業が集まっている関東地方に就職するものがほぼ80%を占めている。また、東北地方への就職は約8%であり、就職率は就職希望者の90%を超えているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、工学部では、大学院と工学部・工学研究科教育運営協議会を設置し、社会で活躍している卒業生を招き、教員との懇談会を実施している。そして、本学部の教育方針についての意見も求めており、「ものづくり」を中心にした教育方針に高い評価を得るなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。



**工学研究科**

I	教育水準	.....	教育 6-2
II	質の向上度	.....	教育 6-4

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 19 年度において、当該研究科は大学院博士前期課程 7 専攻、後期課程 4 専攻で構成され、教育は独立専攻である 2 専攻 27 人の専任教員と当該工学部等の兼任教員が担当している。全学組織のセンターや工学部附属ものづくりセンターが当該研究科の教育研究に積極的に参加している。研究科の運営に当たっては、研究科委員会、企画戦略会議、専攻長会議をはじめとする各種委員会をもって充てるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、工学部・工学研究科教務委員会、同点検・評価委員会、各専攻会議及びものづくり創成工学センター運営委員会が相互に連携し、全学教務委員会、全学教育企画委員会と連絡を取りながら、企画、検討、実施に当たっている。専攻内にはカリキュラム、ファカルティ・ディベロップメント (FD) に関わる委員会やワーキンググループ等が組織されており、様々な意見、ニーズを反映させて、実践的なカリキュラムの構築と教育方法の改善を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 教育内容

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院博士前期課程では、実践的な科目に力を入れ、修士論文作成にも力を入れている。大学院博士後期課程では専門性をもった人材育成のため、非専門分野を必修にするなどの特徴ある教育課程を設けるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、大学院博士前期課程において、「専門知識実践インターンシップ」、大学院博士後期課程において、「双方向インターンシップ」を



開講するとともに、「ものづくり実践特論」を開講している。平成 19 年度には産学官連携の下、世界的水準のオプティクス教育研究拠点の形成を目指して、オプティクス教育研究センターが設置された。当該センターでは工学研究科と一体になって、大学院博士課程（前・後期）の学生を受け入れて大学院教育を行っており、平成 19 年度から、オプティクスに関する専門科目を共通科目として数多く開講している。また、他大学との連携を強めるために、「茨城大学、宇都宮大学、群馬大学及び埼玉大学の大学院教育に関する連携についての協定書」を締結するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 3. 教育方法

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、大学院博士前期課程では、演習や実験科目において、主任指導教員や副指導教員以外の教員からも指導を受けられる機会を設け、講義科目においても調査、プレゼンテーション、討論など学生参加型の授業形態を取り入れるなどの工夫がなされているほか、工学部附属ものづくり創成工学センターが中核となって推進している専門知識実践型インターンシップにおいて、企業から提案された課題の解決に取り組む実践的な学習の機会を提供している。また大学院博士後期課程では、インターンシップ科目において、派遣先関係者と双方向的に関わりながら問題解決型学習を進める手法が用いられているほか、社会人学生に対しては、夜間や休日を利用して授業や研究指導を行うといった配慮がなされている。以上のように、学習指導の方法や学習機会の提供、就学形態への配慮等の点で工夫を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、主任指導教員らによる個別の履修指導の実施、外部講師の講演会開催による学習意欲の向上、特に顕著な業績を上げた学生に対する表彰制度による主体的な学習や研究活動の促進を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

#### 4. 学業の成果

##### 期待される水準にある

###### [判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院博士前期課程において、ほとんどの専攻において9割以上の学生が2年間で修了しており、在学中順調に学力を身に付けていることがわかる。また、10%程度の学生が発表会や連名の論文などで賞を受けており、学業の成果が外部においても認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、研究指導の満足度をみると、「満足・やや満足」といった肯定的な回答が60~70%に達しており、研究指導に対する学生の満足度が高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

#### 5. 進路・就職の状況

##### 期待される水準にある

###### [判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士後期課程の就職率は年度によって変化が大きいものの、大学院博士前期課程では就職者の90%以上は、専門分野に関連する製造業、情報通信業、建設業に就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、社会で活躍している卒業生からの意見によれば、「ものづくり」を志す人を育てるという教育方針や、大学院博士後期課程の高い専門性と幅広い知識を備える人材を育成する「逆T字型」の教育に肯定的な考えを示すなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

## 1. 質の向上度

### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。



**農学部**

I	教育水準	.....	教育 7-2
II	質の向上度	.....	教育 7-4

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学部は4学科から構成され、附属農場、附属演習林、雑草科学研究センター、バイオサイエンス教育研究センター等と密接に連携し、利用を進めているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育内容・方法の改善のための組織として、教育企画会議、学部教授会、教務委員会、点検評価委員会、学務委員会などが設けられ、学部教授会、各学科・コース会議と連携して、教員相互授業参観や全学ファカルティ・ディベロップメント（FD）シンポジウムなどの取組を進めている。さらに全学生を対象とした授業評価を行い、ご意見箱の設置、月例教授会後の農学部学習会開催などを行うほか、学科独自にも改善に取り組む体制がとられているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 教育内容

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「教育課程の編成」については、各学科ともに、学生の学習発達段階を踏まえ、教育目標を達成させるためのカリキュラム体系を準備している。また、専門教育では、講義と実験・実習を組み合わせ教育効果の向上を図り、インターンシップにも十分な配慮をして、現実の場での応用力や総合力の涵養に努めている。さらに卒業研究にも十分な配慮がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、農業関係機関との交流会、官・民の委員を含む農学部運営諮問会議が開催され、学科独自の教育改善システムが組織されて機能している。また、「とちぎ食・環境・農のネットワーク」を組織して、地域が当該大学に期待する事項の把握に積極的に取り組んでいる。さらに、学生の要望を全学的な授業評価や、

農学部ご意見箱の設置、学年担任教員を配置することにより吸収しようとしているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 3. 教育方法

#### 期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、各専門分野のカリキュラムでは、講義科目は実験、実習、インターンシップなどに対応されており、授業方法の改善のために教員相互の授業参観が学部全体で実施されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、一部学科では採点後のレポートや試験答案が返却される。全学科では、各学期終了後に各学年指導委員が成績表を各学生に配付し、必要に応じて教員による学習指導を行うなど、学生の習得度・理解度のチェックを促す取組が進められている。また、学生のモチベーションを高めるため、農学部栄誉賞、卒論優秀賞などの授与が実施されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、農学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

### 4. 学業の成果

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、卒業論文を個別科目で習得した力を総合的に応用する科目と位置付け、公開発表会において、複数の教員による総合的な達成度のチェックがなされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学期終了後に、成績表が学生、身元保証人に配付され、学生自身に学習到達度を評価させ、新たな学習意欲を与えるシステムが

作られているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## 5. 進路・就職の状況

### 期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、63%が就職、32%が大学院進学であり、公務員、農林業・食品・薬品関係、金属関係等多くの学生が専門知識を活用できる職を選んでいるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、学務委員会や卒業生の就職先へのアンケート、農学部運営諮問会議などによって調査が行われ、その意見を基に、キャリア教育・就職支援センターと連携し、インターンシップや就職訪問等を対象にしたセミナーを行い改善に努めているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。



**農学研究科**

I	教育水準	.....	教育 8-2
II	質の向上度	.....	教育 8-4

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「基本的組織の編成」については、4専攻を単位とし、修士8講座を設けているが、資源循環、土地利用型畜産学分野といった入学定員1名の組織もある。しかし附属農場、附属演習林、雑草科学研究センター、バイオサイエンス教育研究センターと密接に連携して人材育成に努めているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、農学研究科あるいは全学の組織として、教育企画会議、研究科委員会、専攻会議、教務委員会、学術国際委員会、点検・評価委員会などを組織して、教育の改善を図っている。複数教員による教育指導体制をとるなどの努力をしており、いくつかの専攻では、独自の改革の組織をもっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 教育内容

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「教育課程の編成」については、修士論文作成のための基礎学力・総合力養成を目的とし、基礎専門科目群を設け、複数専攻にまたがるコア授業を設置するなど、カリキュラムの改善、体系化が進められているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、全学の組織である「宇都宮大学懇話会」、「宇都宮大学運営諮問会議」に加えて、研究科に「農学部運営諮問会議」が設けられ、その意見に従って、農学部プロジェクト研究「那珂川流域の里山科学研究」、高根沢町自然環境基礎調査等のプロジェクト研究が立ち上がり、オープンキャンパスの開催、長期履修制度の整備、国際シンポジウムの開催、姉妹校との相互訪問・実習等が行われている。さら

に、卒業・修了1年目の同窓生を対象にしたアンケート、修了生、卒業生を対象としたアンケートによって、学生生活、就職に関する要望を集約し、改善へ努力しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 3. 教育方法

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、修了単位について、特定の授業形態に偏らないカリキュラムとし、教育・研究指導を体系的に行うため、複数指導教員体制をとっている。また、初期導入教育については、農業の技術者倫理を学習させている。教育・研究指導を体系的に行うためには、ガイダンスの実施、シラバスや時間割の電子化等の手段によって、教員と学生が相互にチェックして研究計画書を作成し、計画発表、中間発表、最終発表という体制を築くなどの工夫をしている。さらに、他大学との定期的な研究交流、合同ゼミなどを行い、フィールドでの活動に参加させるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、教員と学生の相互の意思疎通を円滑に進めるために学習環境を整備している。また、学生の学会参加・発表を促し、国際学会での論文発表については、同窓会と連携して経済支援を行っている。修士論文の発表については、ベストプレゼン賞、優秀学生表彰を設けている。さらに、教員とともに、他大学との合同ゼミへの参加を促し、地域活動に積極的に参加させるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 4. 学業の成果

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院教育で学生が身につけた資

質・能力を多面的・総合的に評価する基準を作っている。また、全ての専攻で修士論文の公開発表会が設定され、複数の教員によって総合的な達成度がチェックされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、修了生を対象に教育改善を進めるためのアンケート調査を実施しており、このアンケートに学業の成果に関する学生自身の自己評価に関する項目を新設して、自身の総合的な達成度を自覚・評価できるシステムの構築を進めるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## 5. 進路・就職の状況

### 期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、68%が就職、18%が大学院博士課程へ進学し、就職者の41%は農林業又は食品・薬品等の製造業が占めているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、学務委員会が修了生とその上司にアンケート調査を行い、上司からは仕事へ取り組む姿勢が評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

- |    |             |        |
|----|-------------|--------|
| 1. | 国際学部・国際学研究科 | 研究 1-1 |
| 2. | 教育学部・教育学研究科 | 研究 2-1 |
| 3. | 工学部・工学研究科   | 研究 3-1 |
| 4. | 農学部・農学研究科   | 研究 4-1 |



**国際学部・国際学研究科**

I	研究水準	.....	研究 1-2
II	質の向上度	.....	研究 1-2

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、研究業績において、レフりー付論文又は開かれた発表機関への論文の件数は、平成 19 年度 18 件であり、教員一名当たりの平均著書・著作数は、平成 19 年度 2.9 件である。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の申請率が、平成 19 年度申請では 75%に上っており、採択件数は 8 件、採択金額は 895 万円であるなど、相応な成果がある。

以上の点について、国際学部・国際学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、国際学部・国際学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、優れた研究成果として、日英のスポーツ行政をめぐる政策ネットワークの動態と特質を分析・考察したものがあある。また、デューイの実用主義が儒教文化を背景に持つ中国の知識人と中国社会に与えた影響を検証したものがああり、国際専門雑誌の書評に取り上げられていることなどは、相応の成果である。

以上の点について、国際学部・国際学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、国際学部・国際学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

相応に改善、向上している



当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。



**教育学部・教育学研究科**

I	研究水準	.....	研究 2-2
II	質の向上度	.....	研究 2-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、平成19年度の状況をみると、教員（助教以上の専任教員97名）一名あたりの平均の著書・論文数は約2件であり、論文のうち、査読によるものが約21%となっている。学会発表は、一名あたり1.6件である。研究資金獲得状況について、科学研究費補助金の採択率は、平成18年度のみ記されており（17.6%）、採択件数については平成16年度以後の大きな変化はない。補助金獲得額については、50%の増加となっていることは相応な成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面において優れていると判断される業績は、歴史学（日本史）の「近世の土地制度と在地社会」、及び数学（幾何学）’ *Dense subsets of the boundary of a Coxeter system*’ であり、いずれも所属学会のレフリーによる査読を受けたものであり、前者については関連学会の書評に取り上げられ高い評価を受けている。後者については、「日本数学会建部賢弘賞奨励賞」を受けている。社会、経済、文化面においては、自然災害科学分野の研究業績「日本の火山ハザードマップ集」が優れた研究成果とされる。これは我が国の気象庁の噴火警戒レベル導入などの資料として活用されていることなど、相応な成果がある。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。



**工学部・工学研究科**

I	研究水準	.....	研究 3-2
II	質の向上度	.....	研究 3-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、研究業績数は、著書の発行数が年々増加しており、特に平成 19 年度は大きく増加している。論文は、平成 15 年度実績 (376 編) に比べて法人化後の平成 16 年度には 461 件と大幅に増加している。その後は、平成 16 年度の実績をほぼ維持している。学術論文については、英文の原著論文が和文論文の約 2 倍程度に増加しており、国際化が進んでいる。研究成果を基にした知的財産権の出願件数は、平成 19 年度に大きな伸びを示し、特許等に関する教員の意識が高くなったことが伺える。また、平成 19 年度に受賞や招待講演件数も国内 43 件、国外 16 件と増加している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金が、採択件数約 50 件、金額は約 1 億 2,000 万円程度で推移している。受託研究や共同研究の受入れ件数は、年度を追うごとに確実に増加しており、平成 19 年度の受託研究受入れ件数は、平成 16 年度と比べると倍増していることなどの相応な成果がある。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「研究成果の状況」については、「世界で初めて計算機ホログラムをフェムト秒レーザー加工に適用し、空間光変調素子を用いて可変任意パターン加工を実現した研究」等、様々な研究が行われており、相応の成果を上げている。また、社会的ニーズに応え、地域社会に貢献する研究を行い、その研究成果が磁化活性汚泥技術、コンクリート技術などに実際に活用されていることは、相応な成果である。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。



## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。



**農学部・農学研究科**

I	研究水準	.....	研究 4-2
II	質の向上度	.....	研究 4-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

#### 期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の著書は 16 件、論文数は 83 件、研究発表は 5 件、国内外での招待講演の件数は 92 件である。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度の科学研究費補助金の受入れ状況が 34 件（1 億 670 万円）であるほか、その他の研究資金の獲得も良好であり、活発な研究活動が展開されていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、農学部・農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、農学部・農学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

#### 期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、季節繁殖動物のウズラを用いて、長日条件で発現する遺伝子群を同定し、甲状腺刺激ホルモンの下流遺伝子群発現の誘導を明らかにした研究が *Nature* に発表されるなど卓越した研究成果を上げている。また、応用微生物学、食品科学、応用動物学、基礎獣医学・基礎畜産学の分野においても、優れた研究成果を上げている。社会、経済、文化面では、優れた研究成果として、例えば、ハシブトガラスの色覚能力に関し網膜の油球の種類、網膜内分布様式を数量的形態学的に把握した研究があり、カラスを避けうるゴミ袋として実際に製品化され、多数の自治体に採用されている。また、「農業経営」の教科書は、高等学校の教科書として 74% のシェアを獲得している。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、農学部・農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、農学部・農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

